



不条理

シリーズ～詩編・ダビデ～

2015/6/14

スター誕生

- 次期王に任じられる
 - 8人兄弟の末っ子で羊を飼っていたのに
- 豎琴演奏家として王に召し抱えられる
 - サウル王のすさんだ気持ちを慰めるために
 - 「王はダビデが大層気に入り、王の武器を持つ者に取り立てた。」サムエル記上16:17
- ペリシテの戦士ゴリアトを一騎打ちで倒す
 - ゴリアトを恐れて誰も出て行かなかった
 - ダビデは兄の安否確認に来たのだが、信仰と経験によって立ち向かい、打ち倒した

順風満帆

＜サムエル記上18章＞

- 王の息子ヨナタンとの友情
 - 「ヨナタンの魂はダビデの魂に結びつき、ヨナタンは自分自身のようにダビデを愛した」(1)
- 連戦連勝
 - 「ダビデは、サウルが派遣するたびに出陣して勝利を収めた。」(5)
- 戦士の長に任命される
 - 「サウルは彼を戦士の長に任命した。このことは、すべての兵士にも、サウルの家臣にも喜ばれた」

突然襲いかかった不幸

- **ダビデの戦果を讃える歌**
 - 「サウルは千を討ち／ダビデは万を討った。」
- **これを聴いて激怒し、悔しがったサウル王**
 - 「ダビデには万、わたしには千。あとは、王位を与えるだけか。この日以来、サウルはダビデをねたみの目で見るとようになった。」(8-9)
- **サウル王、ダビデを殺そうとする**
 - 「ダビデは傍らでいつものように豎琴を奏でていた。サウルは、槍を手にしていたが、ダビデを壁に突き刺そうとして、その槍を振りかざした。ダビデは二度とも、身をかわした。」(10-11)

ダビデの苦悩

＜詩編 109:1～5＞

指揮者によつて。ダビデの詩。賛歌。
わたしの賛美する神よ
どうか、黙していませんでください。
神に逆らう者の口が
欺いて語る口が、
わたしに向かつて開き
偽りを言う舌が
わたしに語りかけます。
憎しみの言葉は
わたしを取り囲み
理由もなく戦いを挑んで来ます。
愛しても敵意を返し
わたしが祈りをささげても
その善意に対して悪意を返します。
愛しても、憎みます。

初めて経験する不条理

- 命を狙われる理由など何一つなかった
 - 「理由もなく戦いを挑んで来ます」
- 尽くせば尽くすほど憎まれた
 - 「善意に対して悪意を返します」
- 一生懸命使えたのに、命を狙われた
 - 「愛しても敵意を返し」「愛しても、憎みます。」
- 正しく行動すれば良い結果が返って来ると信じていた
 - 理解不能な状況！

ダビデの誤解

- 愛すれば愛してくれる
- 仕えれば報いられる
- 理由もなく不幸は襲ってこない

私たちの誤解

- 愛すれば愛してくれる
- 仕えれば報いられる
- 理由もなく不幸は襲ってこない

因果応報

悪行 > 不幸 善行 > 幸福

聖書の教え

- 憎まれても愛するのが本当の愛
 - 愛し方が間違っているかもしれない？
 - 「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」マタイ5:44
- 報いがこの世であるとは限らない
 - 「そのとき、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く。」マタイ13:43
- 神様の目的は他にあるかもしれない
 - 「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。」ヤコブ1:2-3

更に先にある目的

- 「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。」ローマ5:3-4
- 内村美帆先生の証し

車椅子からの メッセージ

内村美帆

【エッセイ】—シンデレラ（東京・町田前）

身の回りの片づけや整理はしましたが、それでもなお家族の負担は大きいと思います。子供たちのことはもう少し大きくなるまで世話をしあげたかった、また両親の世話もしたかった、それができないことを申し訳なく残念に思います。また、主人は本当によくやってくれており、とても感謝しています。

現在、私は身体を自由に動かすことができない病の中にいますが心の中はとて平安です。これは皆さんの祈りのおかげであり、救われているという確信があるからだと思います。また、神様はこの病に対処できるように私の性格を変えてくださり、何でも楽しく笑うことができるようにしてくださいました。

「天国は本当にある」というDVDを観たとき、天国に行くのがとても楽しみになりました。でも心残りは地上に残された家族のことです。今、自分ができることは家族の負担にならないようにすることです。

うことがあります。神様がされることに無駄なことではなく必ず何か意味があるのです。私にはそのことがよくわかります。

私は今まで物事に生産性を求め、努力することや時間に正確なことなどが一番だと思って生活してきました。神様はそういうな私を今の状態に置かれました。そうしなければ私の方から折れることはなく、価値観を変えられることもなかったと思います。神様のおかげで私は変わらざるを得なくなりました。不自由な身体になって、何も十分にできなくなって他人に頼らざるを得ない状況を神様が与えられたことで、このような価値観を学ばせてくださったのだと思います。

今は天国に行ったときにもう一度賛美ができること、歩けること、ピアノが弾けること、イエス様とまみえること、このような希望があります。永遠に生きるという確信があります。このことは何にも勝って一番必要なことだと思います。毎週の礼

拜では声を出して賛美したり、ピアノを弾きたいと思いますが、今はがまんしています。もちろん神様は癒し主ですから土壇場で私を癒してくださいさるかもしれませんが。その希望は持ち続けていますが、もしその希望が断ち切られたとしても天国に行くという希望があるので辛くはありません。

私自身の経験から天国へ先に行く者よりも残された者の苦しみの方が大きいということを知っています。働きの多さ、責任は大変だと思えます。

永遠に生きるということを知らないと不安な人がいますが、それは自分が死んでしまうところに行くかわからないからだと思います。私がこのような状況でなぜこのように平安でいられるのか理由は自分でもわかりません。若い元気な頃も今の私らとて神様はすっと変わらないう良い方なのです。心から主を賛美したいと思えます。

（マタイ7章9-11節）とい

